

第2部 子ども会議発表

大人に伝えたい、ぼくたち私たちの気持ち

小学生7人、中学生6人、高校生7人が、それぞれ「こども会議」を開催して話し合い、大人に知ってほしい「子どもの気持ち」をまとめて発表しました。

小学生の部 発表内容

1、家族内での悪口は言わないで。

ぼくたちは、家族内での悪口を聞きたくありません。おじいちゃんやおばあちゃんの悪口がもしあるとしたら、自分たちはおじいちゃんおばあちゃんが大好きなのに、暗くなって元気がなくなります。お父さんやお母さんの悪口も同じです。だから家族内での悪口は言わないでください。

2、もっとほめて！話をきいて！

ぼくたち子どもは、ほめられることが大好きです。ほめられると、とても嬉しいし、ほめられると成長にもつながります。そしてぼくたち子どもは、話すことが大好きです。自分の言いたいことがしっかり相手に伝わると、とてもすっきりします。みなさんもぼくたち子どもと話す機会を少しでも多くしてください。

3、きげんしだいでおこらないで。

機嫌のいいときは、ちょっとのことでは叱らないのに、機嫌の悪いときは、ちょっとしたことでも叱ります。そんなんで怒られたら、何が正しいのかよく分からなくなってきます。そしてもっといやなことは、感情だけで怒ることです。感情だけで怒られたら、子どもは心のなかで「何で？」と反発します。なので、機嫌次第で怒らないでください。

4、注意するなら大人もちゃんとして。

授業参観などで、先生は子どもに「静かにして下さい」と言いますが、後ろにいる大人のほうが子どもよりもはるかにうるさいです。なので、先生は子どもに言うならまず大人に言ってください。

5、先生、しかるときはピシッとしかって。

叱ったり叱らなかつたりするのは公平ではありません。なので、先生は叱ると

き、公平にして、ちゃんと叱ってください。

6、先生、公平にしてください。

例えば、生徒が悪いことをして先生に怒られるとします、すると先生は、男子にはガーガーと本気で怒って、女子にはあまり本気で怒らないときがあります。すると男子は、なぜ女子も同じ悪いことをしているのに怒られないんだ？と思います。逆に女子は同じ悪いことをしているのに、ちゃんと怒ってもらえないと困ります。なので、公平にしてください。

7、先生、もっと一人一人のことを見てください。

子どもは大人が気づいていないだけで、さまざまなことを抱えています。先生たちは、目の前のことに集中すると、それにまっすぐになってしまいがちですが、そうすると周りで起こっていることがわからなくなってしまうので、もっと一人ひとりのことを良く見てください。お願いします。

8、先生、むりやりザツに決めないで。

これは、生徒たちに何でも適当に指示を出して、生徒たちから出た意見も適当に決めてしまう先生たちがいるので、先生たちは無理矢理ものごとを雑に決めないようしてください。



中学生の部 発表内容

1、信じて、ありのままの私達を受けとめてほしい。

自分達のやりたいことは、やらせて下さい。といっても、好き勝手させてほし

いではありません。私達はちゃんと考えをもって「これをやりたい」というふうに思うのです。それが、私達を信じてくれることであり、私達を受けとめてくれることでもあると思います。きっとまだまだ私達は子供なので、心配になるとは思いますが、失敗すればまたそこから学ぶこともたくさんあります。そうやって私達は成長していきます。また、人はそれぞれ得意・不得意、好き嫌いがあります。ですから他の人と比べないで、ありのままの私達を受けとめて下さい。

2、悪口を子どもの前で言わないでください。

友達のことを悪く言われると私たちは悲しくなります。親同士の噂話は、子どもに変な先入観を与えて、私たちはその人との関わり方がわからなくなります。その親同士の噂のせいで友達を制限されるのも嫌です。その友達の良いところからはもちろん、悪いところからも「反面教師」という言葉もあるように、何かしら学ぶこともあるはずですから、自分が付き合う友達は自分で決めます。大人も人間なので嫌なことはあって当然ですが、子どもは親の影響を受けるので、大人は子どもの見本として、子どもの前での悪口はやめてください。

3、まず自分の行動を見つめ直して

私たちは大人が思っている以上に大人を見ています。子供が手本にしたいような行動を大人にはしてもらいたいです。たとえば大人が子供に注意するように、大人同士でも注意しあってほしいです。大人に比べて経験は少ないですが、対等な立場で見てください。自分ができていないのに、子供に指示をする。機嫌で言っていることが変わったり、怒ったり。筋が通っていないと思いませんか？そんなことを言われても私たち子供は納得できないんです！子供に自分の理想を求めるのなら、まず自分の行動を見つめ返してください。それを見て、私たち子供も大人になっていくんです。



1、子どもと向き合い、意思を頭ごなしに否定せず理解してほしい。

子どもは、自分の意思を頭ごなしに否定されると自分の意思の行き場がなくなり、自信がなくなっていくます。そうなってしまうと、子どもは自分で自分自身を肯定できなくなり、追いつめられてしまいます。大人、親である人たちは、子どもの意思をおいそれと否定しないで下さい。意思は人間を人間たらしめるモノです。意思が無くなれば、人間は人間ではなくなります。そんな人間の根本たる意思を、大人は軽い気持ちで否定します。自分の意思を否定されたことのない人には、この自分の意思を否定された時の感情が理解しがたいかもしれません。けれど、意思を否定された時、まだ年端もいかない子どもたちは、自分の意思を完全に見失うこともあります。大人は子どもの意思を、子どもは大人の意思を理解しようと努力し、互いに向き合い、納得のいくまで話し合ってみて下さい。

2、私たちに注意する前に、大人が模範を示してほしい。

私たちはまだ子どもなので、大人を見て成長するということを実感してほしいと思います。例えば私たちはよく電車内でのマナーを指摘されます。しかしその大人がマナーを守れていないのをときどき見かけます。そんな大人を見ると、マナーを守ることに對する関心を無くしてしまいますし、大人に対する不信を抱いてしまいます。ですから、私たちに注意する前に、大人が私たちにより良い見本を示してほしいと思います。

3、ぼくたち子どもの思いを応援してほしい。

子どもは一人では力不足な時もあります。そんな時には大人の応援や励ましをほしいし、何か上手に行ったときには、しっかりほめてほしいです。将来の夢や目標は幼い時だけ応援して、大人に近づくにつれて現実を押しつけてくるのではなく、私たち子どもはずっとずっと応援してほしいし、壁にぶつかった時には思いきり背中を押してほしいです。

4、「高校生らしく」で、片づけないで。

「高校生らしい態度」「高校生らしい服装」「高校生らしいみだしなみ」。自分で考えなさいなんて言うけれど、大人一人一人が違う考えを持っているし、「高校生らしく」という言葉自体があいまいでもあります。あいまいなそれを大人が語っても伝わることは難しいと思います。大人の言うことだけしなければならぬのでしょうか。「個性の尊重」は大人だけなんではないのでしょうか。校則で四角く固められるのが、「高校生らしい」なのではないのでしょうか。私たちは大人に意味のある「高校生らしい」を語ってもらいたいです。

5、もっと人と人として関わってほしい、一方的な過干渉はやめてほしい。

大人の意見だけが全て正しいとは限らないので、一方的に意見を押しつけたり、怒鳴ったりするのではなく、自分たちの意見や弁解も一人の人間として聞いてほしいです。たとえば、学校においてはもっと先生が一人一人との授業外の質問やなにげない日常の会話でより親密なコミュニケーションを取ることに気がついて、それぞれの性格も理解する努力をしてほしいです。



